

第6章 今後の公共資産のあり方

1. 改善の方向性

今回、地域対応施設の実態を施設面・利用面・運営面・コスト面から整理・分析しました。その結果、様々な課題や今後の方向性が明確になってきました。

例えば、施設面で安全性の問題・老朽化の問題・維持管理コストがどのくらいかかっているか、利用面では利用がされているか、サービスの状況はどうか、利用する住民のニーズに適合しているかどうか、運営面ではどのように運営されているのか、運営は効率的になされているのか、事業コスト面では用途ごとに年間どのくらいかかっているのか、また事業実施上の諸問題など様々なことが明らかになりました。

そして、今後、限られた予算をより有効に活用していくために、今回の白書で整理した地区ごとの特性や人口構成の変化、行政需要などを整理・分析し、事業実施上の諸問題の改善に取組み、13地区それぞれのニーズに合った有効活用策（改善案）を検討するとともに、地域の住民の皆さんとも十分に話し合いながら、より良い方向へ改善していきたいと考えています。

図 有効活用の目的及び有効活用の判断の視点

有効活用の目的	有効活用の判断の視点
<ul style="list-style-type: none"> ● 同一コストでより良いサービスの提供を行う。 ● サービスの質を落とすことなく費用削減を行う。 ● もう少し費用をかければ、より大きい便益（効果）が出せないか。 ● 事業効果をより公平・効率的に達成できないか。 ● 公共が自ら行うよりも民間が行った方が良いサービスになるのではないか。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> I. 施設状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設が保有している能力を十分発揮しているか ・ 施設が適切に維持管理されているか </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> II. 利用状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 行政目的（設置目的）のために設けられた土地・建物が、目的通りに利活用されているか（当初の使用見込みと比較） ・ 利用者等の満足を得て機能しているか ・ 「空き」や「利用低下」に対してタイムリーに再利用等の機能が働いているか </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> III. 運営状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 該当施設で行政サービスを行うことの必然性 ・ 当該サービスによる成果との見合いで、どれだけの物的人的資源が投入されたか ・ サービス提供方式（運営体制、運営方式）の適正性 ・ 公共で行うべき内容のものか民間が行う方が妥当かの判断 ・ サービス内容の妥当性 </div> <p style="text-align: right;">等</p>

2. 今後の進め方

今年度は主に地域対応施設について、コスト情報とストック情報の両面から各用途・各地区ごとに実態把握を行い、「公共施設マネジメント白書」としてまとめました。

今後は、これらの実態把握をもとに、各地区ごとに新たに設置予定の「地域経営会議」等で話し合い、地区ごとの問題点・課題等の実態を住民の皆さんと明らかにし、事業実施のあるべき姿を共有していきたいと思います。それをもとに、13地区それぞれの施設の改善案を検討し、実際に選択し実行していきたいと考えています。

図 今後の進め方

